

自閉スペクトラム症児に対する社会的問題解決スキル指導の検討

—Mind-Reading プログラムを通して—

○堀越麻友紀

中野泰伺

岡崎慎治

(筑波大学人間総合科学研究科)

(筑波大学人間総合科学研究科)

(筑波大学人間系)

KEY WORDS: 自閉スペクトラム症 社会的問題解決スキル Mind-Reading

(目的)

知的発達遅れの有無を問わず、自閉スペクトラム症(以下 ASD と略す)は適切に相手の気持ちを予測したり読み取ったりすることや自分の気持ちを表現したり制御したりすることが困難であると考えられる。その原因として、心の理論との関連を研究した論文が多く存在するが、理解をしていても実際の場面で適切な行動をすることの困難さが指摘されている。また、他者の心の推測が可能になると同時に、自己と他者との比較を行うようになるため、二次的な問題行動はこの時点では増えることが先行研究で示されている。本研究では、Howlin ら(1999)の Mind-Reading(以下 MR と略す)プログラムと仮想的な場面に関する指導を行い、ASD 児の他者視点の獲得や表出方略に変化が見られるかを検討した。また、子どもの行動チェックリストを使用し、問題行動との関連と指導による日常生活場面における変化を検討した。

(方法)

対象児 通常小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に通級する4年生の男児1名を対象とした。医療機関にて自閉スペクトラム症(ASD)の診断を受けている。学習面の遅れは見られないが、対人面の困難が主訴として挙げられている。

手続き 201X年7月から201X年12月にかけて、A大学における月1回の教育相談(60分)において実施した。個別の指導は60分のうち15分程度で、計6回の指導を行った。

1. プレテスト:日本語版子どもの行動チェックリスト(Child Behavior Checklist)日本語版4-18歳(以下CBCLと略す)とTeacher's Report Form日本語版5-18歳(以下TRFと略す)の尺度について測定した。

2. 指導

①Howlin ら(1999)のMR指導プログラムの中の知識の状態/視点の取得についての指導を行った。

②二川・高山(2014)をもとにある仮想的な対人葛藤場面を用意し、問題を提起して問題解決の方略を挙げてもらい、それぞれの方略によって予想される事柄や、登場人物の気持ちに関する回答をシートに記入させた。

3. ポストテスト:プレテスト同様の尺度を使用した。

(結果)

プレテスト→ポストテスト

CBCL、TRF共に「身体的訴え」得点のみプレに対しポストで上昇し、その他の下位尺度および上位尺度の得点は同じまたは低下していた。

指導

①MR課題:全体的に正答率は高く、また、各回において課題の内容は異なるが、回答するまでの時間は共通して短かった。

②仮想場面課題:出現方法は自発がほとんどであり、同意と受け入れは少なかった。方法のレベルについては、回を

重ねるごとに相互・互恵的な方法が増加し、自発において自己重視型や他者重視型はあまりみられなくなった。

③MR課題および仮想場面課題について:各課題における課題関連の有無については、仮想場面課題遂行時の方が課題との関連のある発言が多かった。

(考察)

プレテスト→ポストテスト

CBCL、TRF共にポストテストで全体的に得点が低下した一因として、プレテストの結果を通して支援の方法を見出し、指導を行ったことが反映されたと考えられる。また、家庭と学校に対し協力を求めたことで共通した認識を深め、より一致する部分が増えたと推察された。

指導

①MR課題:MR課題に対する正答率や対象児の年齢などから、心の理論を通過していることがうかがえた。また、自ら登場人物の気持ちを読み取る、考えたことに同意を求める、どう思うかを尋ねるなどの言動がみられ、他者の気持ちに関心をもつ発言が増えたことが推察された。

②仮想場面課題:対象児が課題の枠組みを理解したことで、言語による説明時間の延長や客観的な回答につながったと考えられた。

③MR課題および仮想場面課題について:MR課題では毎回異なった課題のために始めと終わりの見通しが立てにくかったこと、対して仮想場面課題は枠組みが設定されており順序立てて考えることが可能であったことが、対象児の発言と関連があると考えられた。

また、指導的な観点からは、指導者からの方法の提案を多く設けたり、対象児が考えた方法に対して振り返る時間に重点をおいたりして日常生活へのつながりを理解させることで、対象児の言動がどのように変容するのかを検討する余地があると考えられ、これらに関して対象児を増やして検討する必要があると考えられる。さらに、対象児と評価者との関係性によって評価に違いがみられる可能性が報告されている(Peterson, C., 2014)ことから、関係性についても考慮して分析する必要がある。

(文献)

二川敬子・高山佳子(2014)発達障害児における対人交渉方略と心の理論との関連—A児の事例からの検討—。横浜国立大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター研究論集, 14, 7-21.

Howlin, P., Baron-Cohen, S., & Hadwin, J. A. (1999) Teaching Children with Autism to Mind-Read: A Practical Guide. Wiley.

Peterson, C. (2014) Theory of mind understanding and empathic behavior in children with autism spectrum disorders. *International Journal of Developmental Neuroscience*, 39, 16-21.

(HORIKOSHI Mayuki, NAKANO Yasushi, OKAZAKI Shinji)